

令和2年度 第1回 高浜市誌編さん委員会			
日時	令和2年10月5日(月) 午前10時～11時30分		
場所	いきいき広場 会議室A	傍聴人数	0名
出席者	委員	神谷純一 曲田浩和 萩原敏和 村松輝一 後藤恵理 宮田克弥 中川健二 尾崎ヒロミ 神谷坂敏	
	事務局	子ども未来部 文化スポーツグループ 同 同	部長 木村忠好 リーダー 鈴木明美 主任 日吉康浩 主事 広瀬 舜
		株式会社ぎょうせい	土屋和重
次第	1 あいさつ 2 議題 (1)各部会活動の活動状況について (2)「たかはま 歴史・まちづくりシンポジウム」について (3)令和3年度以降の取り組みについて (4)編さんの進捗状況について 3 その他		
資料	資料1 各部会の主な活動状況 資料2 たかはま 歴史・まちづくりシンポジウム③概要(案) 資料3 市誌編さん事業の今後について(案) 資料3-2 R3～R5事業計画(案) 資料4 執筆内容及び担当割(R2.10.1現在)		

令和2年度高浜市誌編さん委員会【第1回】

令和2年10月5日（月）

1. あいさつ

【木村部長】高浜市は本年市制50周年を迎えているが、コロナウイルスの影響で、様々な記念事業等が次年度に行われるという状況である。市誌編さんにおいては何とか今年度中に取りまとめが行われるというところで、せっかくの機会なので市誌編さんにおけるこれまでのあゆみや、今後どのようにつなげていくかといったところをシンポジウムという形で皆様にご披露していきたいと考えている。

コロナ禍であるので、施設の利用に関しては制限等にのっとった上で、今年度中に実施したいと考えている。引き続き、皆様のご理解ご協力をお願いしたい。

2. 委員長・副委員長の選出

※委員の互選により、委員長に神谷純一委員、副委員長に曲田浩和委員が再選。

【神谷委員長】また引続き委員長をさせていただくということで、皆様のお力添えをよろしくお願いしたい。

今年は出版の年になるが、出版した後それをどう活かすかということが最大のポイントになってくるかと思う。皆様のお知恵を拝借して、市民の皆様に使っていただけるような市誌にしたいと思うので、よろしくお願いしたい。

【曲田副委員長】現在、まさに正念場の時期である。昨日、部会長会議を開催し、これからどのように編集していこうか最後の詰めの段階である。ほぼ原稿は揃っているので、うまく調整をしていくところである。3月にシンポジウムも開催予定なので、しっかりと進めていきたい。

3. 議題

(1) 各部会の活動状況について

<事務局：資料1に基づき説明>

【曲田副委員長】このコロナ禍において、遠隔地の調査を行いにくい状況である。特に近世・近代の執筆者が苦戦しているというところがある。現代においては、現在に近いところの執筆の内容が盛沢山で、話が定番になってしまう。それをどう市民の目線で書けるか

ということを考えながら執筆活動を進めている。

生活誌部会は、焦点を変えるということで初校原稿を全て入れ替えた。そこは英断して、より良いものということで部会長の佐野先生をはじめ、事務局にも頑張ってもらい、差し替えが終わったところである。より良いものをつくるために、活動を急ピッチで進めるとともに、この状況の中でできるところをということで行っている。

(2)「たかはま 歴史・まちづくりシンポジウム」について

〈事務局：資料2に基づき説明〉

【委員】入場者数を制限すると説明があったが、コロナ禍において様々なところで行われているようにリモートで実施するとか、シアターなどで会場の様子を見れるようにするとか。人数を制限するのではなく、場所を広く設定して行うという形ではどうか。

広報たかはまのアーカイブは、いろいろな人に話を聞くと人気があるので、それを見て関心を持って来る人もいるのではと思う。多くの人に広めてもらいたいと思う。新しい試みも良いのではないか。

【事務局】サテライト会場については今後美術館とも相談しながら検討していく。例年行っているビデオ撮影したものを、うまく一般の方に見ていただけるような環境を整えることや、講演録も作成するので、そういったものを通してシンポジウムの内容を披露していきたいとも考えている。

【曲田副委員長】今回の市誌が、どちらかという古い時代より現代に重きを置いている。そういった中で現代史は主に、聞き書きをした生活誌部会と資料調査などを行った現代史部会とで内容をすり合わせながら進めているということが今回の市誌の特徴だと思う。生活誌部会の佐野先生には、通常の歴史の編さんとは違ったアプローチで携わってもらっている。それは、佐野先生が市誌に携わる前から高浜市をフィールドとして、名古屋市立大学の学生さんたちと一緒に聞き書きを行ってきたことも関係している。そこで得たことを発表することの難しさと楽しさの両方を率直にお話しいただいて、これからも市民の方に様々な形でご協力いただきたいということを伝えたい。

聞き書きは市民の方がいないとできない。語り手と、話を聞く学生と、その間に入る協力員の方が一体となって、聞き書きができてきたというのは高浜らしい。交流しながら福祉を考えるとという視点と非常にマッチしている。今回がひとつの区切りになるので、これまでやってきた特徴を押し出すような形で、佐野先生にお願いするのが良いのではという

のが、昨日の部会長会議における意見である。

(3) 令和3年度以降の取組みについて

〈事務局：資料3に基づき説明〉

【委員】 貴重な資料等が捨てられてしまう時代なので、資料を探していることの声掛けを高浜市のHPや広報たかはま等でもっと積極的に行うべきでは。少人数での声掛けでは限度がある。

【委員】 貴重な資料が捨てられてしまうという話があったが、行政が発行した例えば広報などは、基本的には最初からすべて持っているのか。

【事務局】 広報については現物がすべて残っており、この編さん事業のなかでデータ化も行った。ただ、私たちが日常的に作成しているような行政書類については、保存年限が決められていたりするため、なかなか残りにくい。

【委員】 今回市誌が編さんされるが、その次は何年後になるかはわからない。その時、急いで資料を集めるということは難しいので、次の市誌に収録できる資料を、毎年のようにしっかりと残していくようなルールをつくってもらいたい。

もう一点、昔から郷土資料館には膨大な資料等があると聞いているが、具体的な量が全くわからない。これからまだ紐解かないといけない資料が大量にあるのか。

【事務局】 今回主に整理したのが考古資料及び古文書を含む文書関係で、文書資料については優に1,000点は超えている。それ以外に点数ははっきりしていないが、昔の農具や瓦作りの道具、瓦そのもの等がある。まずは今回、執筆のための材料となる紙ベースの資料を整理したので、民具などは点数が把握しきれていない。ただ、やはり高浜の魂とも言える窯業関係に関しては、市民の方々にも広く知ってもらいたい。また、衣浦湾で海苔の養殖が行われていたことなどは、若い方には知られていないと思う。それらにまつわる道具等は残っているので、これからも整理を継続的に進めて、資料を活用していきたい。

【委員】 今回ページ数の関係で掲載できない部分もあるだろう。次の市誌を作るときのために、何がどんな理由で掲載できなかったのかわからないので、その辺りもしっかりと整理してもらいたいと思う。

【委員】 過去の高浜市誌編さんに関わった方が残されたアルバムをお借りしているが、中から昔あった道しるべの写真が出てきた。それらが現在はどうなっているのか把握しているのか。

【事務局】 道しるべは、区画整理や道路の拡幅などで動かされてしまっている。先日たまたま伺った方のお宅では、道しるべが庭石のように埋まっていたりもした。なかなか把握が難しい。

【委員】 できれば郷土資料館に保管するなどしてもらいたい。

【曲田副委員長】 私たち編集委員会委員が少し心残りなことがある。郷土資料館には、過去の膨大な杉浦茂治さんの筆写資料があって、本来であればその筆写が正しいかどうか検証をしなければいけなかった。写し資料なのでどうしても間違いや勘違いがある。今回は時間が限られていたこともあり、検証作業ができないので使えなかった。しかし今後、杉浦氏が何十年も書き溜めた、段ボール何箱分もの膨大な資料を検証しなければいけないということが課題として残っている。少しずつでもいいので、手書きのものをデータとして残しながら、現物があるのか等も照合するという作業を続けていかなければいけない。場合によっては既に無くなってしまった資料が相当あると思う。こういった場合は、二次的な資料ではあるが非常に貴重なものである。

通常、市誌編さんは10年くらいかけながら行うことが多い。なので、部会長の先生方にはもう5年は高浜市にお力添えをとお願いしている。この5年間で編さんをし、次の5年間は発行されたものをどう活用するか、積み残してきたもので出来ることはあるかなどということに、お力を尽くしていただきたいと思っている。

【委員】 過去につくられた高浜市誌では間違いもかなりあるので、こういった市町村誌編さんでは正確性が問われるところ。

【神谷委員長】 提案であるが、例えば人形作りで15分、瓦関係で20分、昔の遺跡で15分などのミニ講座をつくり、同時にダイジェスト版の冊子も準備する。そういったミニ講座のリストを並べて、例えば子ども会・学校・いきいきクラブなどへ「1つでも2つでもいいから聞いてみませんか？お話伺います。」といったかたちでPRするのも手だと思う。この取り組みに合わせて、話をするのに協力してくれるボランティアも募集して、そういった方に話をしてもらおう。より専門的な話をとということになってきたら編集委員会の先生方をお願いするといった形で、広く市民の方に声を掛けていくということが、市誌をPRしていく一つの方法になるのではないかと思った。

【事務局】 待っているだけでは何も生まれないので、できるだけこちらから仕掛けていくような方法も考えたい。曲田副委員長の話にあった、杉浦茂治先生の資料だが、段ボール箱にして数十箱ある。しかし、ほとんどが手書きで残されていたため、今回は時間的な都

合もあり使用することが困難であった。ただ、現在整理している臨時職員からの話によると、恐らく資料館に残っていないような古文書の写しも混ざっているとのことである。それらも一度しっかりと整理して、現物と照合できるものは照合し、既に失われてしまっているものは茂治先生の残された貴重な資料を手掛かりに、調査を進めていきたいと考えている。

(4) 編さんの進捗状況について

〈事務局：資料4に基づき説明〉

【曲田副委員長】この委員会での議論を踏まえながら、どういった市誌をつくるかということ随分考えながらやってきた。編集の状況は事務局からの説明にあった通りだが、私の方で「高浜市のあゆみを読む前に、このように読んでほしい」という文章を書いた。各部会の原稿が出る前に書いたので、今後書き換えることもあるかもしれないが、その説明をさせてほしい。皆さんのご意見を頂戴したい。

【曲田副委員長、原稿朗読】

重厚なものというよりは、なるべく手に取ってもらいやすいような、読んでわかりやすいものをつくりたい。タンスの肥やしにしてはならないというような話も、議論の中で出てきた。こういったことを踏まえて、まずここを読んでから本編に入ってもらおうということで書いた。まだたたき台の段階で変更は可能なので、ご意見をいただければと思う。

【神谷委員長】先ほど私が提案した、ミニ講座に合わせてダイジェスト版冊子をつくるということに関して、観光協会としては利用の仕方があるだろうか。

【委員】HPに掲載するといったことは可能だと思う。専門的な言葉遣い等はなかなか理解されないところがあるかもしれないが、利用はできると思う。

【神谷委員長】皆さんのお知恵を拝借しながらご協力いただきながら広められたらと思っている。例えば岡崎だと、岡崎にまつわる様々な事柄をまとめた小さな冊子が20冊ほどあって、自由に持っていけるようになっている。図書館でそういったことはできそうか。例えば「人形を訪ねて」で1冊など。

【委員】昔高浜で、大山のたぬきなどを案内するような折り畳みの冊子があったと思う。そういったものがあると、高浜に来た方に配るのは大変有効かと思う。先ほど委員長が提案されたダイジェスト版冊子はいい試みだと思う。図書館に来るのは子どもが多いので、子どもたち説明するのに簡単で読みやすく、たくさんの方が載っていると、とても良い

と思う。岡崎のような小冊子も大変良い案だと思う。今後、図書館と市とで相談して進めていけたらいいのではないかな。

【神谷委員長】 学校での活用という点ではどうだろうか。

【委員】 小学校・中学校共、高浜の歴史と関わらせながら通史を学ばせることを目指している。高浜市は中世の資料は今まで見当たらなかったの、そういったところは参考になる。日本全体、また地域の中で高浜市がどういったことをやってきたのかというところを見ていくと教材として重宝されるかと思う。ここから教員が関心を持って調べて、教材作りができていくと良いと思う。

のびゆく高浜や市誌編さんに関わっているが、シンポジウムなどでは様々な方が熱心に意見交換されて、関心を持たれていることを感じる。そういった場に、教員やその事柄に関係する人が、もっと関わるといいかなと思う。先ほどシンポジウムの声掛けの話もあったが、声掛けは大切で、興味を持つ人がひとりでも増えてくれると良いと思う。

【委員】 先ほど曲田副委員長が読まれた中に、「高浜の魅力を再発見」という内容があって、大変感動した。子どもたちが読む上でも、この思いを知った上で読んででもらいたいと感じた。文面で書いてあるだけだと、読む・読まないが分かれてしまうと思うので、是非学校で学ばせる際にも、こういった思いを話した上で、子どもたちに対して活用してもらえたらと思う。

【委員】 鬼みち、吉浜の人形小路といった道が市内にあるが、携帯やタブレットを使って、バーコードリーダーで読み込むと、その説明や歴史的背景が出てきたり、音声で説明したりといったことができる、もっと観光にもつながると思う。ハイテクを活用しつつ、市誌の取り組みも継続していったら良い。

4. その他

・特になし。次回の日程については別途調整。